

7. 補足（対前年比の指標の見方）

経済指標を読み解く上で**対前年比による指標を見る際には特に注意が必要です。**情報を発信するメディアや金融商品を取り扱う証券会社等は、日々の経済活動の変化自体がビジネスそのものとなっているため、売上高や販売数量等の絶対値には触れずに、対前年比又は対前月比の数値を強調します。

例えば、2008年に100億円売上高があった企業が翌年（2009年）に30%売上高が減少した際には売上高が70億円になります。その後2010年に2009年の売上高に対して40%売上高が増加したとしても、その金額は70億円+28億円（70億円の4割）の98億円にしかならず、2008年度の売上高より減少しています。

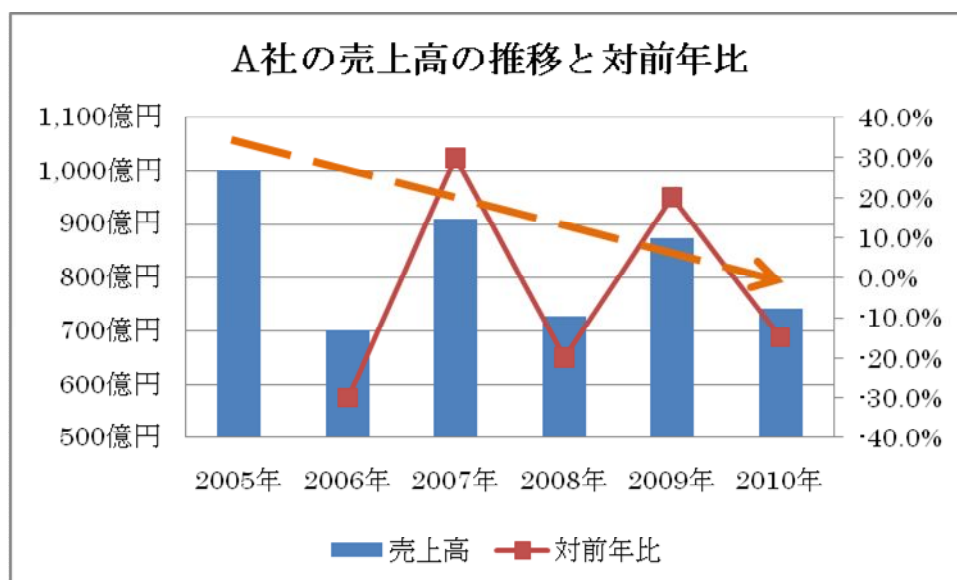
しかしながら、その事には触れないか、触れても一時的な数字として公表するだけで、ただ変動比率のみを公表しています（例外としては高齢化の絶対値等は公表しています。）。多くのビジネスマンは日々の仕事に追われているため、日々の新聞やネット情報の見出しで判断しがちであり、結果として、大きな見過ごしや、経営や投資における判断ミスを犯す恐れがあります。

これらの事項に注意したうえで、投資指標を読み解く事が重要となります。

【対前年比表示のまやかし??】

A社の売上高と対前年比の推移（長期で見れば絶対値は右肩下がりに減少している!）

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
売上高	1,000億円	700億円	910億円	728億円	873億円	743億円
対前年比		-30.0%	30.0%	-20.0%	20.0%	-15.0%



以上